

石川為純

著後の子

要用のこの中へけさる河南共利分功
しんノき見ノ序文又色ニおそく書
くさくくもして信るるに

○若石翁の序ノ文も認事ノ板下ラ成
花河南くさくくもして信るるに

石本表中之事も一も認事ノ成
既ニ彫刻出する事也又更ニ彫改也

いり書きおくニ并とく又まき
き板下ヲ捨テよりくさくく用とるも

此書よりとも認事ノ事也右彫改也
ニを以要門人中ニ認事ニ彫ちん銀
と共利くニ辨事、

○右石翁ノ三冊ノ彫刻此紙ハ是と
遠江社中分ニ何紙ニ書し

河南一已ノ基も一ニ大分ノ念も
か、を以社中分も念も

自書 嘉うり強、本ヲ二十紙ニ書
つさくも

十五之紙ニ先念をさうらつめ
か、

大要の事、
實ニありたる
藤原

周彦社中